

# ツルボラン科のゼンテイカ

内田 暁友



ゼンテイカ(斜里町ウトロ、2017年6月12日)

## 野に咲くオレンジの百合

ゼンテイカという和名をもつユリをご存知でしょうか。漢字は禅庭花で、ゼンテイカの「カ」が花なのは良いとしても禅庭がよくわからず、とっつきにくい名前ですね。北海道ではエゾカンゾウが通称です。エゾカンゾウ、エゾゼンテイカ、ニッコウキスゲ...これらはみなゼンテイカの別名ですが、これらの方がよく聞く名前でしょう。

北海道では海岸から湿原、亜高山帯の雪田まで、初夏になるとさまざまな環境でオレンジ色の大きな花を見かけます。といってもエゾシカの好物ということもあり、近年の知床ではオロンコ岩のようにエゾシカが侵入できない場所でないとお花畑のように咲く様子は見られません。

なお、北海道の海岸草原ではよく似たエゾキスゲも咲きます。こちらの花は黄色で、花の色に注目すれば区別は容易です。知床の近所では小清

水原生花園にエゾキスゲの大きな群落があり、観光名所となっています。

ゼンテイカの花は1日しか保ちません。学名 *Hemerocallis dumortieri* var. *esculenta* の属名 *Hemerocallis* (ワスレグサ属) もギリシャ語 *hemera* (日) + *kalos* (美しい) からなり、花が1日しか保たない種類が多いこの属の特徴を表しています。ちなみに種小名 *dumortieri* はベルギーの植物学者デュモルティエ (B. C. J. Dumortier, 1797-1878) に献名されたもの、また変種名 *esculenta* は食べられるという意味で、たとえば中華やアイヌ料理でも食材にします。

## ユリ科からツルボラン科へ

たくさんの呼び名があることから、分布が広くて分類が難しい種であることが判ります。面白いことに、種より大きな「科」という分類の単位でも同様に難しいようなのです。

昔々、私が学生だった頃は形態的な特徴からユリ科とされることが普通でした。ところが、ここ20年ほどで遺伝子を使った系統の解析が進み、ユリ科は細分されました。例えば知床に分布するものだけでも昔のユリ科植物は7つの科に分けられました。ゼンテイカなどワスレグサ属の所属は1998年に発表された分類体系 (APG 1) でワスレグサ科に、2009年のバージョンアップ (APG 3) でスキノキ科に、2016年 (APG 4) にはツルボラン科に名称が変わっています。

ジャングル奥地の植物ではなく、身近な野のユリが植物学の最先端で右往左往してしまう不思議さ、これこそ科学の面白さといえるでしょう。

発行 2018年1月24日  
発行所 知床博物館協会の  
099-4113北海道斜里郡斜里町本町49  
斜里町立知床博物館内  
TEL: 0152-23-1256 FAX: 0152-23-1257